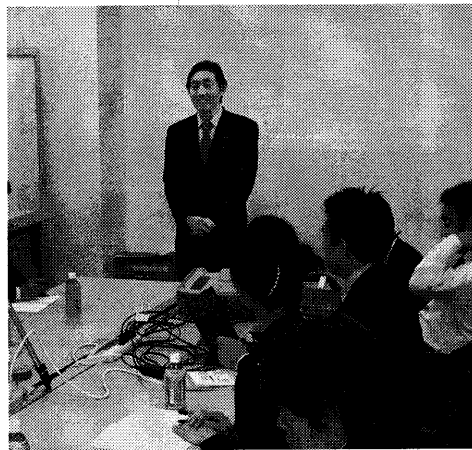


日本WPA 低炭素社会実現へ貢献

排出量算定ソフトが進化

カーボンオフセット新事業にも会員参加



カーボンオフセット研修会であいさつする田嶋会長

日本WPA（日本水なし印刷協会、田嶋久義会長、正会員164社）が、時代の変化に対応した新しい環境対策を次々に打ち出している。

昨年12月に開催された「エコプロダクツ2009」では、印刷サービスクーティング（CO₂排出量算定ソフト）を発表した。

日本WPAが進める印刷サービスクーティング（CO₂排出量算定ソフト）は、一定の要件を満たした上で無償配付している。



新発表のバタフライCO₂ロゴ（サンプル）

さらに、PGGによるCO₂排出量計算数字を表示できるように、新たに「バタフライCO₂ロゴ」も発表した。

印刷サービスクーティング（CO₂排出量算定ソフト）は、日本WPA会員である清水印刷紙工業株式会社（東京都文京区）の清水宏和社長が開発し、会員会社に提供しているもの。当初はエクセルで組まれていたが、より使いやすく、海外会員でも使えるよう多国語対応にし、セキュリティ

面も強化したソフトウェアとしてファイルメーカープロで作成された。PGGは専門家からも高い評価を与えられている。LCA（ライフサイクルアセスメント）普及への貢献により、清水印刷紙工業は、LCA日本フォーラム（山本良一会長・東京大学教授）から会長賞を授与された。「バタフライCO₂ロゴ」は、水なし印刷で印刷したことを証明するバタフライロゴと、PGGで計算した印刷物1部あたりのカーボンオフセット排出量を明示し、これをカーボンオフセットしたことを証明するロゴ。

従来は、バタフライロゴ、CO₂ロゴ、CO₂排出量算定の3パーツを別に表示する必要があったが、新ロゴ1つで代用できるようになった。すでに、発注印刷物のCO₂排出量算定サービスクーティングを展開している会員企業がある。

日本WPAでは、一連の取組みに関して次のように述べている。

「今後、産業界はあらゆる分野でCO₂削減に取り組まざるを得ない。われわれのPGGを使い、CO₂排出量を印刷物に表示し、あわせてカーボンオフセットを実施することで、CO₂の排出の活性化につながることを考える。1社でも多くの会社の参加を期待したい」と述べた。

日本WPAは1月22日、第3回カーボンオフセット研修会を東京と大阪の東レ本社テレビ会議室で開催した。

研修会を開く

日本WPAは、社団法人日本カーボンオフセット（COJ）と包括契約を結んでいる。その中で、水なし印刷で印刷すること、PGGで計算することを条件に、日本WPA会員企業がCOJからカーボンオフセット枠を買い取り、カーボンオフセットできる道を開いた。

PGGの運用に関しては、コンプライアンスの徹底を図るため、日本WPAが行う4回の講習を受講することが義務づけられている。昨年7月に28社の参加を得て講習が始まった。